

ならの木便り



新年を迎えて

保護者の皆様には、良きお年を迎えられたことと存じます。

コロナウイルスの感染拡大という大きな問題を抱えて、新しい年を迎えました。そしてその感染が大きく広がり始めている様子に、私たちも、今まで以上に気を抜かないように気を引き締めていかなければならないと考えています。それと共に、世の中の閉塞した空気を感じているであろう子ども達に、幼稚園に来たことで、一つでも多くの『楽しかった』という思いを抱けるように、職員たちと工夫していきたいと思います。

特に三月には卒業するすみれ組の子ども達には、お別れ遠足の頃には、コロナウイルスが多少でも収束して、元気一杯で全員で山登りをして、一生の思い出づくりができたらと、心から願っているところです。そして卒園式も無事に行えるように祈るような気持ちです。

二日の日には、所用で東京の小岩まで出かけていきました。電車の中は思ったより混んでいて、多少不安になりました。こんな時に何で出かけるんだろう、家にいれば良いのになどとフツと思って、自分で一人で笑ってしまいました。そう、周りから見れば私自身が家にいなければならぬ対象なんだと。

学生時代の先輩との待ち合わせでしたが、用件を済ませた後で『鬼滅の刃』の話になりました。この漫画の流行は、一年以上前から話題になり始めていたということは既に聞いておりました。

去年の暮れ回りだったでしょうか、その物語が、民放で三時間スペシャルで放映されるのを知ったので、その晩に私も1部分を見ていました。

最初からの筋書きが分からないから当たり前のことなのですが、まず、全く意味が理解できませんでした。これは見ても仕方がないかな、と思いテレビの画面を消しました。実際に見たのは一時間にも満たなかったのかも知れません。

そんな短い時間だったのに、残酷なシーンが多いことに驚きました。そして、主人公の炭治郎の着物の市松模様の柄や、日本古来の大人の遊び道

具である花札のイヤリング、妹彌豆子の唾える竹、修行の道具にひょうたんを渡される主人公、十二単（じゅうにひとえ）や巫女（みこ）のような装束他、日本古来の伝統的なものが随分あるなど感じました。

民俗学者の先輩には、私はわずかに見ただけなのに、残酷なシーンが多くて、子ども達が見ることが怖いというような話をしたと思うのですが、この先輩は既にストーリーを全部知っていて「あの物語は輪廻転生（迷いの世界で何度も生まれ変わることを）を描いているのよ」といわれて、なるほどと思い、残酷な漫画はあまり好まない私ですが、「輪廻転生」という言葉に惹かれたことと、中途半端で何も分からない状態で、なにかと批判するものどうかとも思うので、今は読んでみようかなと思いはじめております。これだけ世に迎えられるには、それだけの強いメッセージが物語の中にあるに違いないと思直したこともあります。

でも、子ども達には、そのストーリーにある思想も、人を殺したり傷つけたりするというのがどんなことかも、ほとんど分かってはいない状態でしょう。その心の中には、残酷なシーンや面白おかしく描かれている部分だけが心に刷り込まれていくことなのでしょう。その残った映像が、成長していく子ども達に良い影響を与えるとは到底思えません。子ども達には見せないで欲しい漫画です。

先輩と別れたその帰り道、本や書類の入った重い荷物を持って、かなり人で混みあっている階段を登ろうとしたときです。フツと荷物が軽くなったと思ったら、私の後ろから階段を上ろうとしていたであろう青年が、実に当たり前のように私の荷物を持って、笑顔で「上まで運びましょう」といって、私を庇うようにして上まで運んでくれたのです。心晴れない今日この頃でしたが、一人のさわやかな青年の笑顔と親切に、いつも以上に心を温められました。そして、その日は、優しい気持ちで過ごせました。

新年からそんな気持ちにして頂いて、今年が良いことがありそうな気がしています。

園長 浜野和子